

ブラジル
アマパ・イニシアティブ

現地からのお便り

2016年5月
コンサベーション・インターナショナル

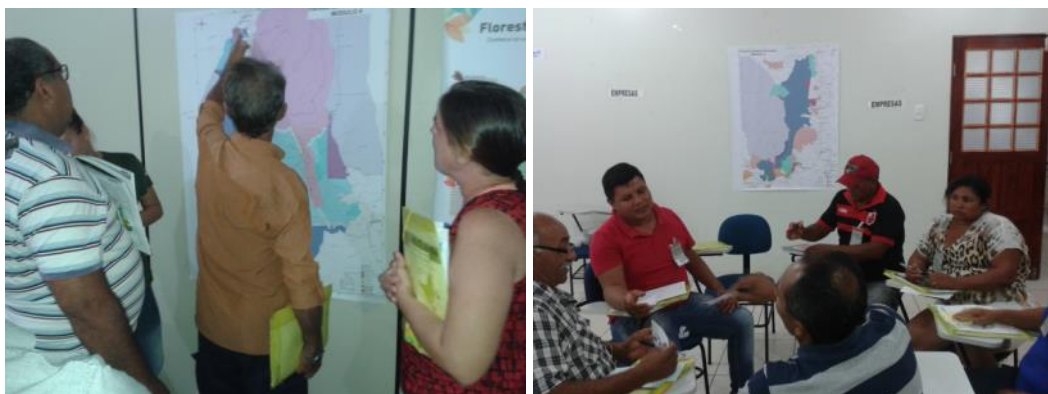
保護地域をよりよく管理していくための広報ネットワークの支援

私たちは現在、5月中の完成を目指して、アマパ州の保護地域の広報計画作りを進めています。3月11日から13日にかけて、フェレーラ・ゴメス市で、広報計画作りのワークショップを開きました。4つの市から25人のコミュニティ・リーダーが出席しました。ワークショップの目的は、広報計画作りを支える戦略的な要素を明らかにすることです。



アマパ州フェレーラ・ゴメス州でのワークショップの様子
©Conservation International/Photo by Josinei Garcia)

ワークショップでは、情報を整理し、最も効果的な広報手法を見つけるために、グループに分かれて検討しました。



ワークショップでのグループ作業の様子
©Conservation International/Photo by Josinei Garcia)

今後、4月から5月にかけて、3回のワークショップを開催します。そこで鍵となる情報を明らかにし、広報計画を最終化させていきます。



森林管理とアグロエコロジープログラムの支援

経済活動はコミュニティが社会的、経済的に発展するために重要です。持続可能な形で森を使えば、戦略的に自然のバランスを守りつつ、人々に繁栄をもたらすことができます。保護地域では、地元の組織と一緒に活動することが大切です。なぜなら、このような地元の組織こそが、コミュニティの意思に沿って、コミュニティ全体の利益のために、資金を動員し、パートナーシップを締結し、プロジェクト作りをリードしているからです。私たちがこの四半期に行った活動を紹介します。

「ボン・スセソ協会」の会合

アマパ国有林とアマパ州有林の住民が参加する社会的な組織のひとつに、アラグアリ川に隣接する農産物生産者からなる団体である「ボン・スセソ協会」があります。ボン・スセソ協会は、2月19日に、アマパ州のポルト・グランデ市で会合を開きました。そこには、35人の住民が参加し、非木材林産品のプロジェクトの管理やアグロエコロジーを活用した持続可能な生産について議論、タパジヨス国有林での経験の共有、同協会のロゴの作成、アラグアリ川の社会的な組織の強化について話し合いました。



ボン・スセソ協会の会合の様子 ©Conservation International/Photo by Josenei Garcia

この会合の後、「ブラジル零細・小企業支援サービス（SEBRAE）」とコミュニティをつなぐグループが形成され、ボン・スセソ協会の組織力と経済活動を強化するために、SEBRAEのサポートを受けることが出来るようになりました。

非木材林産品の管理

ボン・スセソ協会のメンバーであるアマパ国有林とアマパ州有林の住民が、2月23日から25日かけて首都のブラジリアで行われた「保全ユニット管理のベストプラクティスについてのセミナー」で発表を行いました。発表の内容は、アンディローバ、コパイバ、ファヴァ、ブリューの木を使った非木材の工芸品の管理についてです。



セミナーで発表するボムスセソ協会のメンバー
© Conservation International/Photo by Josiney Garcia

このセミナーは、ブラジルの研究機関である「生物多様性保全チコ・メンデス研究所」が、非政府機関と連携しつつ開催しました。ブラジルの保護地域の管理におけるベストプラクティスを高め、広め、増やしていくことが開催の目的です。

最後に

このプロジェクトでは、アマパ州でのパイロット的な取り組みを強化しています。アマパ国有林とアマパ州有林における活動の支援を通して、自然と近いところで生活を営む家族の生活を改善していくことを目指しています。私たちは、アグロエコロジーを基盤とした持続可能な活動を選ぶよう促すこと、木材及び非木材林産品の管理を改善すること、コミュニティの社会資本を強化すること、これらの課題の広報を支援することを進めていきます。

※画像および文章の無断転用はご遠慮ください。